

平成18年度気候講演会（札幌）の開催について

気象庁は、地球環境問題に関する最新の科学的知見やその対策などについての知識を深めて頂くために、「気候講演会」を平成元年から毎年、日本各地で開催しており、今回は札幌市で開催致します。

本講演会では、異常気象、地球温暖化の実態や将来予測について北海道に関連したトピックを交えて紹介するほか、地球温暖化が海洋に与える影響や地球温暖化防止に向けた取り組みなどについて広く紹介致します。

記

- 1 期日：平成18年10月7日（土）13時～15時30分（12時30分開場）
- 2 場所：札幌市生涯学習総合センター ちえりあ
（札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10）地下鉄東西線宮の沢駅下車 地下直結通路徒歩5分
- 3 実施体制：
主催 気象庁、（財）日本気象協会
後援 北海道、札幌市、北海道地球温暖化防止活動推進センター、
（社）札幌聴力障害者協会、（社）日本気象学会
- 4 実施内容
タイトル：「変わりつつある地球を知ってください～地球を守るのは私たち～」
講演：○地球温暖化によって気候はどのように変わるのか
～異常気象レポート2005を中心に～
気象庁気候情報課長 栗原 弘一
○温暖化で変わる海洋の未来 ～食卓からサンマが消える？～
北海道大学大学院 助教授 山中 康裕
○環境を守って得をしよう～ドイツの取り組みから～
札幌市環境保全アドバイザー ビアンカ・フルスト
- 5 その他：
定員：400 名（先着順）入場無料
本講演会では聴覚障害者向けに手話通訳とパソコン要約筆記を行います。

本件問い合わせ先：気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課
03-3212-8341（内4225）

気候講演会

変わいっつある地球を知ってほしい
地球を守るのは私たち

平成18年10月7日（土）13時～15時30分（12時30分開場）

主催：気象庁・（財）日本気象協会

後援：北海道・札幌市・北海道地球温暖化防止活動推進センター

（社）札幌聴力障害者協会・（社）日本気象学会

講演

- 地球温暖化によって
気候はどのように変わるのか
～異常気象レポート2005を中心に～

気象庁 気候情報課長 栗原 弘一

- 温暖化で変わる海洋の未来
～食卓からサンマが消える？～

北海道大学大学院 助教授 山中 康裕

- 環境を守って得をしよう
～ドイツの取り組みから～

札幌市環境保全アドバイザー ピアンカ・フルスト



会場 ■ 札幌市生涯学習総合センター ちえりあ
(札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10)

定員 ■ 400名（先着順）

入場無料

交通 ■ 地下鉄東西線宮の沢駅下車
地下直結通路徒歩5分



気象庁
マスコットキャラクター
はれるん

講演会では聴覚障害者向けの手話通訳と
パソコン要約筆記を行います。



本講演会のお問い合わせ先（ホームページ）

札幌管区気象台 総務部 業務課 TEL 011-611-3217 (<http://www.sapporo-jma.go.jp/>)

気象庁 地球環境・海洋部 地球環境業務課 TEL 03-3212-8341 内線 4225 (<http://www.jma.go.jp/>)

（財）日本気象協会 北海道支社 総務・営業部 TEL 011-622-2230 (<http://www.jwa.or.jp/>)

講演概要



地球温暖化によって 気候はどのように変わるのか ～異常気象レポート2005を中心に～

気象庁 気候情報課長 栗原 弘一



この100年間に、全世界の平均地上気温は約0.7度上昇しました。また、近年、これまでになく気温の高い状態が世界的に続いています。このように、地球温暖化をはじめとする気候変動は人類にとってその存在基盤をも脅かしかねない深刻な問題の一つとして認識されています。気象庁は異常気象や地球温暖化に関する最新の科学的知見を「異常気象レポート」として提供しており、平成17年10月には、その7回目となる「異常気象レポート2005」を公表しました。本講演では、同レポートの内容から異常気象と地球温暖化の關係に焦点をあて、これまでの世界と日本の気候の変化、及びその見通しについて、北海道の話題にも触れながらお話しします。



温暖化で変わる海洋の未来 ～食卓からサンマが消える？～

北海道大学大学院 助教授 山中 康裕

人間活動に伴って放出された二酸化炭素の半分は、大気中二酸化炭素濃度を上昇させ地球温暖化を引き起こし、残りの半分は、海洋や陸上植生によって吸収されています。水に溶けると弱酸である二酸化炭素が弱アルカリ性の海洋（約pH8）に溶けていくということは、酸とアルカリの中和反応にほかならず、今世紀末の海洋のpHは現在より約0.3減少することが予測されています（海洋酸性化）。

地球温暖化や海洋酸性化によって、プランクトンの種類構成の変化や、光合成量の減少が起こり、さらに、それらを餌としている小型浮魚類（サンマやイワシ）や商業魚種（サケなど）も深刻な影響を受けると予想されます。現在開発されつつある、温暖化からサンマなどの水産資源を予測するシミュレーションを紹介します。



環境を守って得をしよう ～ドイツの取り組みから～

札幌市環境保全アドバイザー ビアンカ・フルスト

環境保全のメッセージには、「減らす」、「我慢する」などの言葉が多く出てきますが、実際に環境に配慮することで「得」する事がたくさんあります。暮らしやすい地域、美味しい食事、気持ちいいエコハウスなどライフスタイル面でのメリットを感じることもあれば、経済的にプラスの効果を生むことも可能です。ドイツでは、「エネルギー農家」までもが存在します。彼らは、農産物で環境にやさしいエネルギーを作って、収入を成り立たせるとともに、CO₂削減に繋がる環境保全の活動によって地域を元気にすることに成功しています。ドイツで成功している環境保全は、すべてが「賢い仕組み作り」に基づいています。交通、ゴミ対策、自然エネルギー、新素材などの分野を例に、ドイツの環境保全の取り組みやそのアイデアについて紹介します。